

初代松江市長・福岡世徳文書(一)

竹永三男

島根大学法文学部

近現代史ゼミナール

解題

福岡世徳(つきのり、嘉永元(一八四八)年一〇月一五日〜一九二七(昭和二)年一月三〇日)は、『備忘録』にみられるように、松江藩士として二度の幕長戦争と戊辰戦争に従軍し、廃藩置県後は県官・教員となった。さらに自由民権運動に参加し、また代言人として活動した。松江市制の施行にともなって、一八八九(明治二二)年、初代松江市長に就任、一九一一(明治四四)まで四期二二年間務めた後、一九一二(明治四五)年から一期、衆議院議員(立憲政友会所属)となった。

見られるように、島根県と松江市の近代史上重要な人物であるが、その事蹟は、これまでのところ十分に明らかにされておらず、略伝が、『明治百年島根の百傑』(一九六八年)、『島根県百科事典』(一九八三年)、『松江余談』(一九八九年)などに紹介されているにとどまる。

本稿は、松江市北堀町・福岡知恵子氏所蔵の初代松江市長・福岡

世徳文書の中、自筆の「備忘録」「在京日記」の全文を翻刻したものである。「備忘録」は、辞令・勲記・年々の手帳などをもとに自身の履歴・活動歴を編年で綴ったもの、「在京日記」は、一九〇三(明治三六)年、第一次桂太郎内閣が行政整理政策の一環として府県廃合を計画した際、京都の市長として上京し、情報収集と陳情(県庁移転を伴う事態の回避を求めたと推測される)に奔走した日々の記録であって、いずれも記事内容の信憑性は高い。

福岡家文書の存在は予て知られており、部分的利用はされていた。近現代史ゼミナールについては言えば、一九八一年秋、自由民権百年の全国的取組みが行われていた際、当時三回生の炭田光一、道端実両君が中心となって大学祭で展示を行った際、その存在を確認していたものを、後、竹永が、福岡知恵子氏のご許可をえて分類・整理し、複写収集していたものである。その内容は、これら二点の外、履歴関係書類、手張九点(一八九一年〜一九一四年、途中欠あり)、政友会・議会関係文書、松平直亮家来簡などである。

今年一九八九年は、松江市制百周年にあたり、各種の記念行事・

記念出版がなされたが、前掲『松江余談』を除けば、初代市長に詳しく触れたものは見られない。そこで、ゼミナルとして大学祭(瀬風祭)展示を行うとともに、島根近代史研究の現状に鑑み、基本史料の共有を図って、本文書の翻刻に取り組んだ次第である。

凡例

翻刻に際しては、原文どおりとすることを原則としたが、次の諸点については、記述上の変更・修正を行った。

1. 文中の改行は、文書引用などを除いては特に行わず本誌の一行字数に従った。なお、一部の文字は常用漢字に改めた。
2. 抹消が単なる誤字・誤記の場合は訂正された文字のみを記し、内容上の変更となるような場合のみ、該当部分の左側に抹消記号(ミ)を付し、右側に訂正された文字を記した。
3. 欄外注記はハ Vで括り、小字で記した。
4. 挿入部分は原文どおり(○印で挿入)とせず、挿入後の文を記した。
5. 翻刻にあたっては、全文翻刻を原則としたが、家庭内私事にとる記述は割愛した外、人名の一部を伏せ字(□)とした。
6. 原注は()、原文割注は小字、校閲者注は「」で記した。
7. 執筆分担は以下のとおりである。()内は学年

「備忘録」

- 文久三年一月二三日〜明治元年閏四月三日条 名原恭子 (I)
- 明治元年閏四月八日〜明治一五年二月二五日条 長谷川直子 (II)
- 明治一六年七月一日〜明治二六年四月一〇日条 松本恵理子 (I)

- 明治二六年四月一日〜明治二九年六月九日条 大坂理恵 (I)
 - 明治三〇年二月一日〜明治三七年七月二七日条 樽美康一 (I)
 - 明治三七年九月二六日〜明治四四年八月二一日条 西山一徳 (I)
 - 明治四四年八月二二日〜大正一三年八月二二日条 池淵高史 (III)
- 「在京日記」

全文

また、次の各君が協力した。

- 鳥谷由加里(IV)、河村創造(III)、西尾秀道(III)、坂川 徹(I)、水川祐子(I)、加藤 剛(I 教育学部)

8. 全文の校閲は竹永が行った。本文書の検討は別途行う予定である。

末筆ながら、史料の閲覧・利用をご快諾いただいた福岡知恵子氏に、心から御礼申し上げます。

(竹永三男)

翻刻

文久三年——大正十三年迄	タテ 二四・八 cm
備忘録	ヨコ 一七・〇 cm
福岡 世徳	本文 四〇丁

備忘録

- ^{一八九九、以下同}文久三癸亥年十一月廿三日来春御上京之節御供炮術士被仰付
- 同四甲子年正月十日御發薦二付御供ニテ発足同月廿二日京都二着ス
- 同年同月廿八日此度ハ雪中就中早春ノ御道中ニ付別段ノ思召ト云

フヲ以テ御酒肴ヲ賜ハル

○元治元年甲子年二月廿一日御發駕御供ニテ京都發足三月三日歸着ス

○同年三月十六日三ノ丸御番方御雇被仰付

○同年四月六日田中御殿南方御殿御番方御雇被仰付

○同年七月廿八日御旗本炮術士被仰付

○同年十月十八日御備一ノ先三番小隊被仰付

○同年十一月九日此度出陣ノ面々御目見被仰付太切ノ出陣心配ノ至何レモ一和ノ働御頼思召候旨御意アリ同日御酒肴ヲ賜ハル

○同年同月同日當春御番方御雇相勤候ニ付為御褒美御目録金百疋被下置

○同年同月十六日一ノ先出陣ノ際御武器方ニ於テ御近習頭高橋九郎左衛門ヲ以テ何レモ勇々敷可致出陣ト被思召依之行軍御覽遊ハサル旨被仰出寒天ノ砌別テ太儀一同壮健候様ニト被思召候旨御意アリ同月十七日神門郡知井宮本郷ニ出陣ス

○同年十二月廿一日御側役中村三左衛門ヲ以テ寒中ノ在陣別テ太儀ニ被思召依テ御酒肴被下旨御意被成下

○同乙丑年正月三日毛利大膳父子服罪國內鎮静之体被見届候處異儀無之依テ討手ノ面々陣拂可致旨尾張大納言様ヨリ御達有之此方様御人数モ引揚ノ儀ハ追テ可及通達旨被仰渡ハ元治ノ

○同年同月十四日来ル廿一日出立歸陣スヘキ旨被仰渡同日神門郡知井宮本郷出立翌廿二日歸陣御武器方ニ於テ御用達神谷彦左衛門ヲ以テ何レモ無難致歸陣御満足被思召候由御意アリ

○同年二月十七日此度一ノ先歸陣ニ付御料理被下置

○同年同月十八日御目見被仰付無難ニ歸陣御満足被思召旨御意アリ

○同年三月八日隠州嶋前御備捧火矢士被仰付旨被仰渡

○同年同月十九日此度渡海ニ付御書院ニ於テ御當職方御逢被仰渡有之同日御酒肴被下置

○同年同月廿日此度隠州渡海ニ付島前海士村山陵守衛可相勤被仰渡

○同年同月廿八日御作事灘ヨリ乗松馬瀉ニテ一泊翌廿九日出帆同日隠州嶋後二着船同所ニテ二日逗留四月朔日嶋前二着船ス

○慶應元乙丑年五月十一日昨年田中御殿南方御殿御番方御雇相勤候ニ付御目録金七百疋下賜

○同年九月三日此度交代被仰付旨被仰渡同月廿二日隠州嶋前出帆同日歸帆

○同年同月廿三日御旗本第二小隊被仰付

○同年同月廿八日隠州ヨリ歸帆ニ付御目見被仰付

○同乙丙寅年六月六日御旗本備ノ面々工御目見被仰付御太切ノ御出陣盡粉骨一和ノ働御頼思召候旨御意被成下同日御酒肴下賜ハ慶應ノ

○同年同月十九日御出馬ニ付御供ニテ楯縫郡平田ニ出陣ス

○同年七月十九日御陣拂ニ相成御供ニテ同日歸陣ス

○同年同月廿一日田中御殿御番方被仰付

○同年同月廿三日御備二番手附属炮術士戰士兼被仰付赤穴工出陣スヘキ旨被仰渡

○同年同月廿四日松江発足同月廿六日飯石郡頓原ニ出陣同月廿九日三日市ニ操込ミ被仰付

○同年八月十四日何レモ奮發敵地近罷在艱難苦心被遊御憐察何等ノ障モ無之哉ト御氣遣被思召依テ陣中為御尋御側役瀨田與右衛門ヲ以テ御意被成下御肴料金三百疋下賜

○同年同月同日二番手追々長陣二相成候處一同格別致心配候ニ付為御了簡金二両下賜

○同年十月七日此度諸御備御引揚二付テ二番手御備来ル十日歸陣御儀定二相成候旨被仰渡之同日飯石郡吉田村出立同十二日歸陣ス

○同年十二月七日出陣中艱苦候ニ付為御褒美銀三枚被下置旨於御前被仰渡之

○同三丁卯年正月十一日此度御備御組替二付二ノ見砲術士戰士兼第二小隊被仰付ハ慶應

○同年五月廿日鍵鎗場執事被仰付毎歳銀杓枚被下置旨被仰渡

○同年九月四日昨年歸陣セシニ付御料理被下置

○同年十一月十三日此度御上京之節御先工被遣砲術士被仰付旨被仰渡

○同年同月十六日儒學句讀師手傳可相勤旨教授ヨリ被申渡

○同年十二月十四日御上京之節御先工被遣旨被仰付置候處此度京都御警衛為御手當勤番被仰付支度次第出立可致旨被仰渡

○同年同月廿日於書院御當職方御逢被仰渡有之御酒肴被下置

○同年同月同日儒學句讀師手傳相勤候ニ付為御褒美御目録金百疋被下置

○同年同月廿五日發足上京

○明治元年戊辰正月四日大坂二着同所ニテ三日逗留同六日夜御人数不殘京都工被差遣二付支度次第早々出立スヘキ様被仰渡同七日大坂出立翌八日京都二着スハ明治

○同年二月十一日此度山崎關門御警衛第六小隊御手當被仰付候間来ル十四日同所工出張スヘキ旨被仰渡同日京都出立同日山崎二着ス

○同年三月三日御用向有之早々出京スヘキ旨被仰渡

○同年同月四日山崎出立同日京都二着ス

○同年同月廿日御警衛向何レモ不厭難苦敵重心得吳御満足被思召候此度行幸ニ付テハ一段致心配吳候様厚ク御頼ミ思召候旨御意被成下

○同年同月廿二日山崎ノ砲術士ト交代被仰付候ニ付明後廿四日京都出立元宿陣ニ罷帰候様被仰渡

○同年同月廿四日京都出立同日山崎二着ス

○同年四月五日御側役重村與一兵衛ヲ以テ何レモ御為筋只管存込其身ノ艱苦ヲ厭ハス川番所精勤候段神妙ノ事ニ候旨御意被成下

○同年同月十五日御用向有之候間支度次第早々出京可致旨被仰渡同夜山崎出立翌十六日京都二着同日西園寺殿銃隊御覽有之

○同年同月十七日御用向相濟候ニ付京都出立同日山崎二帰ル

○同年閏四月三日先達テ銃隊訓練相勤候面々始テノ儀心配候ニ付乍聊御酒御肴被下置旨被仰渡

○同年同月八日平賀縫殿殿ヲ以當今不容易時勢之處何レモ不厭艱苦御主意相守候段委曲達御聽御満足被思召候猶御警衛筋厚ク相心得候様且又思召ヲ以テ御酒御肴被下置旨被仰渡之

○同年同月十五日此度交代被仰付旨被仰渡之同廿日山崎出立同廿八日歸國ス

○同年五月十七日此度平賀縫殿殿渡海被仰付候ニ付附添渡海候様御談有之翌十八日乘船翌十九日隱州嶋後二着船ス

○同年六月十二日御國表工被差歸旨御談有之同十四日嶋後出帆同日歸帆ス

○同年七月廿六日二番大隊御使番御雇御手當被仰付

- 同年九月十九日儒學句讀師被仰付每歳銀五枚被下置旨被仰渡之
- 同年同月廿八日三番大隊御使番御雇手當被仰付
- 同年十一月八日若殿様御儒學御相手被仰付
- 同年十二月十日若殿様御儒學相勤候二付御目録金二百疋被下置
- 同年同月十九日御用之義有之京都表工被遣旨被仰渡之
- 同二己巳年正月廿八日發足二月六日京都二着ス
- 同年二月廿五日御國表工被差帰旨被仰渡同廿七日京都出立三月五日歸國ス
- 同年四月九日此度佐川内蔵之進隱岐工為御使者被遣候二付附添被仰付旨被仰渡同十日乗船同十五日隱岐嶋後二着船ス
- 同年同月廿三日隱岐出帆同廿五日歸帆ス
- 同年同月廿六日此度職制御改正二付召出御役組工組入被仰付每歳金二兩被下置旨被仰渡
- 同年九月七日出精相勤候二付三人扶持被下置句讀齋長試補兼勤被仰付
- 同年十二月廿八日等級四等列下學館句讀齋長并句讀師兼勤被仰付御役金増廿三兩被下旨被仰渡
- 明治三庚午年正月十七日此度石州出張二付中行人雇被仰付同日發足同十八日今市二着同日同所ヨリ早追ニテ石州濱田ニ罷出同廿二日今市ニ歸ル
- 同年同月廿二日此度御引揚二付今市発足同廿三日松江ニ帰ル
- 同年同月廿七日此度書生寮御取建二付寮長句讀齋長兼勤被仰付等級御役金は迄之通且ツ句讀師被成御免旨被仰渡
- 同年八月廿三日以本官被備議員旨被仰渡
- 同年閏十月廿五日松江藩權大屬二任セラル同日以本官刑法掛監察兼申付ケラル
- 同四辛未年正月廿日監察差免サレ東京在勤申付ケラル
- 同年 月 日発足 東京二着ス
- 同年十二月十五日當分島根縣事務取扱申付ケラル
- 同年同月廿七日島根縣十一等出仕申付ケラル
- 同壬申年六月日不詳東京出張所詰交代歸申付ケラル
- 同年 月 日東京発
- 同年八月十日島根縣權大屬二任セラル
- 同六年一月十二日奥飯石郡工出張申付ケラレ 日発足 日頓原二着 日頓原発足 日帰着ス
- 同年二月廿八日依願本官ヲ免セラル同日一ヶ年以上勤續二付月給半額金拾五圓下賜
- 同年六月四日當分第三區小學校講讀助教師申付ケラル
- 同年十月廿三日第三區小學校助教師差免サル
- 同七年五月廿七日第十八中學區灘町小學三等教師申付ケラル
- 同年同月卅一日家禄三拾貳石之内貳拾石奉還ヲ願ヒ六月二日聽届ケラル
- 同年十一月十三日第十八中學區外中原小學三等教師申付ケラル
- 同八年一月七日第十八中學區外中原内中原小学二等教師申付ケラル
- 同年三月卅一日家禄殘拾貳石奉還ヲ願ヒ同日聽許セラル
- 同年四月十日職務差免サル
- 同年同月同日教員傳習校工入舎申付ケラル

- 同年五月五日舎長申付ケラル
- 同年十月三日小學師範學科卒業證書ヲ授與セララル
- 同年同月四日教員傳習校舎長勤務中格別勉勵ニ付近世史界老部ヲ賞与セララル
- 同年十二月十九日第三區小學校工米三石式斗書籍三部石盤五枚寄附仍賞トシテ木盃老箇ヲ賜ハルハ后▽
- 同年十月四日第十八中學區外中原内中原内中原女兒小學教師申付ケラレ月給十圓給与セララルハ前▽
- 同九年三月十七日依願職務差免サル
- 同年 月 日発足東京ニ着ス
- 同年六月十二日東京発足同十七日帰國ス
- 同年同月廿二日第廿一中學區外中原内中原内中原女兒小學教師申付ケラレ月給十圓給与セララル
- 同十年九月廿四日卓子倚子七組區内小學校工差出候段奇特ノ旨賞セララル
- 同十一年七月十六日平素品行肅正生徒教育方行届候ニ付特別ヲ以テ金三圓賞与セララル
- 同十二年一月十六日五等訓導申付ケラル但在勤小學如故
- 同年三月八日来ル四月二日岡山縣教育會議開設ニ付議員トシテ出張申付ケラル
- 同年三月 日発足 日岡山ニ着ス
- 同年 月岡山発足 月 日帰國ス
- 同年 月所有ノ家宅ヲ代金百貳拾五圓ヲ以テ平野節敏ニ賣却ス
- 同年六月十日届出外中原町二百四十二屋敷兼本俊奥宅ニ転住
- 同十三年三月廿三日公立内中原小學校訓導タルノ認可證書ヲ授与セララル
- 同年五月廿一日旧第四大學區教育會議来ル六月初旬ヨリ於本縣開設ノ筈ニ付員外議員申付ケラル
- 同年六月十日旧第四大學區教育會閉場ニ付員外議員差免サル
- 同年八月十九日松江医院監事申付ケラル但月給十五圓支給セララル
- 同年八月三十日算術授業師兼務申付ケラル
- 同十四年二月十二日兼務差免サル
- 同年十二月廿八日職務勉勵ニ付為手當金五圓支給セララル
- 同十五年二月廿三日依願職務差免サル
- 同年同月廿五日監事奉職中職務勉勵候ニ付為手當金七圓五拾錢支給セララル
- 〔以下三行空欄〕
- 同十六年七月一日代言免許ヲ受ク
- 同年十二月十三日殿町三百九拾二番屋敷ニ轉住ス
- 同十八年九月十日訴訟事件ニ付當地發足同月十三日廣島に着ス
- 同年十二月廿八日廣島發足同三十一日帰國ス
- 同廿年十月一日訴訟事件ニ付當地發足途中石州邇摩郡揖野卓治方ニテ滞在同月五日濱田ニ着ス
- 同年同月廿六日濱田發足同廿九日帰國ス
- 同年十一月十日母衣町三拾老番屋敷ニ轉住ノ旨戸長役場ニ届出ツ
- 實八十月廿一日不在中ニ轉住ス
- 同廿一年七月七日本縣勸業諮問會員ヲ命セララル
- 同廿二年六月一日松江市長就任裁可書ノ送達ヲ受ク

- 同年六月十六日蚕業組合加入届ヲ出ス
- 同年八月 日日本赤十字社社員トナリ年々金五圓ヲ出ス丁トセリ
- 同年九月一日旧實印毀損ニ付改印翌二日市役所ニ届出ツ へ實印更改^(印)
- 同年九月六日鳥根縣私立教育會ニ加入ス
- 同年同月十日赤十字社ノ章牌ヲ受ク
- 同年同月廿七日金五圓ヲ進取學館ニ寄附ス
- 同年十月六日金五圓ヲ三州學校ニ寄附スル丁ヲ諾ス
- 明治廿三年二月廿六日祿太郎遊學ノ為メ上京ス
- 同年四月五日神谷善之進組立融通講ニ加入ノ株ヲ福本銀次郎ニ讓與ノ証書ヲ渡ス
- 同年四月廿五日付ヲ以テ祿太郎寄留届ヲ市役所ニ出ス寄留所ハ東京市本郷區臺町廿三番地齋藤新太郎^{之助}
- 同年五月二日貧民へ金五圓施與奇特ノ旨ヲ以テ縣知事ヨリ賞状ヲ受ク
- 明治廿三年五月九日嶋根縣私立衛生會ニ入會ス
- 明治廿四年一月廿日發足五州一縣請願委員トシテ岡本金太郎ト共ニ上京ノ途ニ就キ全月廿六日東京ニ着シ麴町區下二番町廿二番地樋田ハン方ニ投宿ス
- 全年二月七日東京ニ於テ小印ヲ遺失スハ認印紛失[▽]
- 全年三月八日東京發足全十四日帰宅ス
- 全年全月十七日ヨリ新刻ノ小印ヲ用ユ^(印)認印新調[▽]
- 全年全月廿一日松江婦人會ノ賛助員タル丁ヲ諾ス

- 全年四月廿二日ヨリ新刻ノ小印ヲ用ユ^(印)新調ノ小印[▽]
- 但美術展覽會出品預リ証第五百号迄ハ旧印ヲ押捺シ置ケリ
- 全年八月廿四日日本赤十字社年釀金自今貳圓ヲ減シ參圓トナス旨届置ク
- 全年九月廿一日帝國生命保險會社ヨリ解約ノ申込ニ對シ承諾ノ郵書ヲ發ス明治廿三年十一月廿日契約ス
- 廿五年三月十八日松江市役所建築費ノ内工金五拾圓ヲ寄付ス
- 明治廿五年十月廿一日發足関西各市協議會ノ為メ岡山市へ出張同廿三日同所へ着卅一日迄滞在卅一日全所發足熊本佐賀久留米福岡赤間関廣島各市ヲ巡歴シ十一月九日帰郷ス
- 明治廿六年三月三十日松江市長辭職申立書ヲ市會議長ニ出ス
- 全年四月十日辭職申立ノ件市會ニ於テ承認之旨議長ヨリ通知ヲ受ク
- 全年四月十一日赤十字正社員退社申込書ヲ出ス同時ニ社員章及縮盟状ヲ返還スハ赤十字正社員退社申込ハ取消シ社員章及縮盟状ハ更ニ交付ヲ受ク[▽]
- 全年四月十一日大日本帝國水難救濟會鳥根縣委員辭任書ヲ呈ス
- 全年四月十五日關電世界博覽會事務委員辭任書ヲ出ス
- 廿年四月十七日市役所事務引継ヲ了ス
- 全年四月十八日弁護士名簿登録請求書ヲ松江地方裁判所檢事局ニ出ス
- ハ弁護士名簿登録請求書
- 自分義弁護士志願ニ付松江地方裁判所弁護士名簿ニ登録相成度別紙代言免許狀寫弁護士法第二條第一号第五條第六條ニ定メタル要件ノ證明書相添此段請求候

也

明治廿六年四月十八日

族籍氏名

司法大臣宛

○全年四月廿日松江地方裁判所検事局ニ備フル所ノ弁護士名簿ニ登録ノ旨検事正ヨリ通知ヲ受ク

○全年四月廿三日弁護士名簿登録ノ通知ハ行違アリ依テ一応返戻スヘキ旨組合会長ヨリノ通知ニ接シタルヲ以テ返還ス

○全年五月一日辯護士名簿登録規則第三條ニ依リ明治廿六年五月一日第六号ヲ以テ松江地方裁判所^{マツエ}検事局ニ備フル所ノ辯護士名簿ニ登録ノ旨松江地方裁判所検事正北川精一ヨリ通知ヲ受ク

○全年五月三十日辯護士名簿登録取消請求書ヲ松江地方裁判所検事局ニ出ス

○辯護士名簿登録取消請求書
自分儀松江地方裁判所辯士名簿ニ登録済ニ候處都合之義有之候ニ付該登録取消相成度此段請求候也

明治廿六月五月三十日 島根県松江母衣三十一番地屋敷

司法大臣芳川頭正殿 弁護士 福岡世徳

○明治廿六年五月三十日松江地方裁判所検事局ニ備フル所ノ辯護士名簿第六号ノ登記ヲ取消ス旨検事正ヨリ通知ヲ受ケタリ

○明治廿六年六月十六日松江市長就任裁可書ノ送達ヲ受ク

○明治廿六年七月七日日本弘道会へ加入申込ム

○明治廿六年七月廿三日神門郡杵築皇道會へ入会承諾之書状ヲ發ス

○明治廿六年九月六日母衣百九十八番屋敷ノ一二轉住即日市役所ニ届出ツ

○明治廿六年九月廿五日松江市役所建築費トシテ金五拾圓寄付候段寄特ニ付木杯卷箇下賜セラル

○明治廿七年八月十八日明治廿六年十月縣下風水災ノ節罹災窮民へ金拾圓餘施与候段寄特ニ付木盃卷箇下賜セラル

○明治廿七年九月十九日發足天機伺ノ為廣島ニ出張廿五日帰松ス

○廿七年九月縣下風水災ノ節窮民へ金壹圓施与候段寄特ノ旨十二月廿六日縣知事ヨリ賞セラル

○明治廿八年五月廿一日ヨリ神戸市ニ於テ関西各市協議會ヲ開クニ付五月十七日出帆郵船会社ノ瀛船ニテ敦賀港ニ航シ十八日午前八時

全港ニ着松全日午後一時三十分發ノ瀛車ニテ午後九時大坂ニ着十九日奈良ニ往キ即日帰坂廿日神戸ニ往廿四日午後八時京都ニ往廿七日全所發廿八日廣島ニ着廿九日午後四時全所發全同卅一日午後六時

帰松ス

○明治廿八年十月十二日發足同月十五日廣島ニ於テ執行ノ臨時招魂祭并十六日之將校歡迎会臨席之為メ廣島へ出張同十七日午后同所出

發十九日午後五時十分帰松ス

○明治二十八年十一月六日大日本武徳會地方幹事ヲ囑任セラル

○明治廿九年二月一日發足鉄道用ノ為メ上京五日着京同十八日東京發足同廿三日帰松ス

○明治廿九年四月十四日舊藩地ニ関スル事務顧問囑託ノ旨松平家ヨリ依囑セラル

○明治廿九年三月卅一日付ヲ以テ明治廿七八年事件ノ功ニ依リ金百貳拾圓ヲ賜フ旨ノ辞令書ヲ受クハ。明治廿七八年事件ノ功

○明治廿九年六月九日發足兵營設置ノ件ニ付廣嶋ニ出張十一日着廣

十四日迄同所滞在十五日同所出發午後岡山二着同所ニテ十六日一日滞
滞在十七日同所出發上京十八日午后五時着京麴町五丁目五番地相模
屋事柳川平助方ニ投宿廿七日迄滞京廿八日午前十一時四十五分東京
出發七月一日帰松ス

○明治三十年二月一日發足

英照皇太后陛下御葬儀奉送ノ為メ京都ニ往キ四日午後八時着蛸薬師
通東洞院東入ル遠藤新平方ニ投シ同七日堺町御門内ニ於テ奉送回九
日午前五時發足十三日午后六時帰松ス

○明治三十年十二月四日出雲育英會ヘ明治三十一年一月ヨリ向フ拾
年間ニ金參拾圓ヲ毎年金參圓宛醸出スルノ承諾書ヲ該會ニ出ス

○明治三十年六月一日明治廿七八年戦役ノ際軍資金ノ内ニ金壹圓獻
納ニ付賞状式通ヲ受ク

○明治三十一年五月十二日發途境港ニテ二泊十四日同港ヨリ郵船會
社持船三河丸ニ乗組午后二時出帆十五日午前七時敦賀港ニ着同日午
后福井市ニ着同所ニテ二泊十七日午前同所出發午后岐阜市ニ着同廿
二日同所出發京都ニ着同所ニテ二泊同廿八日帰松ス

○明治三十一年七月拾九日發足第廿一聯隊歓迎ノ為メ濱田出張廿一
日濱田着廿六日午后十一時濱田發足廿八日帰宿

○明治三十一年九月二十日欄外之印鑑松江市役所ニ届濟ハ㊦マツ印
鑑 ㊦禄太郎印鑑

○明治三十一年十月廿一日日本赤十字社島根支部社員惣代トシテ本
社總會ヘ出席ヲ命セラレ廿二日當地發足上京廿五日午前十一時半着
東麴町五丁目五番地柳川平助方ニ宿泊十一月三日午後零時三十分東
京發同七日午后七時帰宅

○明治三十二年六月十二日松江市長ノ任期滿限ニ付退職ス

○明治三十二年七月十四日松江市長就任裁可書ノ送達ヲ受ク

○明治三十二年八月三十一日出發登阪九月二日着阪全五日朝同所出
發六日午后六時帰宅ス

○明治三十二年十一月十日出發全国各市協議會ヘ出席並ニ撰擧法改
正運動鉄道運動ノ為メ上京十四日着京麴町五丁目五番地柳川平助方
ヘ投宿明治三十三年二月廿四日東京出發全廿七日帰宅ス

○明治三十三年十月十日福岡マツ赤十字正社員申込ミ即日社員章ヲ
受ク

○明治參拾四年一月十八日出發鉄道速成事件ニ付上京同廿一日着京
柳川平助方ニ投宿三月廿四日東京出發同廿七日帰宅ス

○明治參拾四年四月廿三日 小松宮殿下御迎ノ為メ伯州倉吉ニ出張
廿三日帰松

○明治參拾四年四月廿五日小松宮殿下奉送ノ為メ簸川郡杵築町ヘ出
張翌廿六日帰松ス

○明治參拾四年五月十一日出發三重縣津市ヘ関西各市協議會ノ為メ
出張同十八日參宮十九日津市發足大坂ニテ一泊同廿二日帰松

○明治參拾四年七月五日出發廿一聯隊兵凱旋歓迎ノ為メ濱田ニ出張
七日到着十三日發足十五日午前十時半帰宿ス

○明治參拾四年七月廿三日福岡マツ戦時救護補助ノ目的タル婦人会
ニ入會スハ福岡マツ婦人会ニ入會

○明治三十四年八月三十日 敷島、朝日、泊瀬、出雲、浅間ノ五軍
艦美保灣ニ入港ニ付訪問ノ為メ同所ニ出張三十一日帰松ス

○三十四年九月十一日松江圖書館ニ金五円寄付ノ申込ヲ為セリハ圖

書館寄付

- 明治参拾四年九月十二日出發十五日執行ノ濱田招魂祭ニ臨場ノ為メ出張十七日午後濱田出發二十日午前九時帰松ス
- 明治参拾五年一月廿二日出發鉄道運動ノ為メ上京廿六日着京麹町五丁目柳川平助方ニ投宿二月十六日東京出發同廿日帰松ス
- 明治三十五年十一月四日第五師團演習視察師團長見送リヲ兼ネ簸川郡へ出張同夜直江ニ於テ宿泊翌五日今市ニ往キ山口師團長ヲ訪問シ同夜荏原ニテ宿泊六日帰松ス
- 明治参拾五年十一月十七日出發大田ニテ宿泊十八日江津泊十九日濱田着二十日招魂祭ニ参列神式翌廿一日同佛式ニ参列同日午後二時濱田出發江津泊リ廿二日田儀泊リ廿三日帰松ス
- 明治三十五年十一月廿四日福岡松愛国婦人會ニ入會スハ福岡マツ愛国婦人會ニ入會ス
- 明治参拾五年十二月七日鉄道事件ニ付島根縣知事随行李子ニ出張鳥取縣知事ト會見翌七日帰松ス
- 明治参拾五年十二月八日海員掖濟會ニ入會スハ海員掖濟會ニ入會
- 明治参拾六年一月八日左辞令書ヲ受ク
- 明治三十三年清国事變ノ功ニ依リ金八拾五圓ヲ賜フ 明治三十五年十二月廿八日ハ。三十三年清国事變ノ功
- 明治卅六年三月廿七日松江商業會議所特別議員ニ當撰之旨通知ヲ受ケ同月三十日承諾書ヲ發ス
- 明治参拾六年四月六日松江出發第五回内国勸業博覽會視察ノ為メ登坂同七日午後五時着坂南區生玉寺町好靜館ニ投宿同十五日午前七時大坂發同十八日帰松ス
- 明治三十六年九月十四日知久重徳九月十一日ヨリ當家に寄留自家主兼保護者トシテ市役所ニ届出ツハ重徳寄留届
- 明治三十六年九月十七日松江出發府縣廢合問題ニ付上京同二十日東京へ着麹町相模屋へ投宿十月六日東京出發同九日帰松ス
- 禄太郎金澤市長町六番町十三番地供田權次郎方寄留届居候處明治三十六年十月十二日復帰ノ旨同月十六日届出ツハ禄太郎寄留復帰届
- 禄太郎明治参拾六年拾月式拾壹日出發清国上海ニ渡航致候ニ付全月式拾貳日外国渡航届書ヲ松江市役所ニ差出ス前以テ届出ノ規則ナリハ禄太郎外国渡航届
- 明治参拾六年拾壹月廿一日島根縣園藝會ニ入會スハ島根園藝會入會
- 明治参拾六年拾壹月廿七日水難救濟會ニ入會スハ水難救濟會入會
- 明治三拾七年四月廿八日付ヲ以テ島根縣私立教育會評議員補欠當撰之旨會長片岡英儀ヨリ通知ヲ受ク
- 明治三十七年六月廿一日明治三十六年度松江市工藝品陳列所建築費ノ内へ金五拾圓寄付之分納付ス
- 明治参拾七年七月廿七日松江市軍入慰藉義會へ金百圓ヲ義捐ス
- 明治参拾七年九月廿六日出發第六十六救護班視察ト云フ名義ヲ以テ廣島豫備病院慰問ノ為メ廣島へ出張廿八日着廣猫屋町高橋慶之進方ニ宿泊各豫備病院慰問赤十字病院船博愛丸ヲモ訪問猶適後備廿一聯出征ニ付十月五日六日同聯隊並後備第五旅團本部出發ヲ字品ニ見送り六日午後三時廣島出發同八日午後三時廿分帰宅ス
- 明治参拾八年一月六日付ヲ以テ福岡カッ來ル八日出發清国上海ニ渡航ノ旨届出ツハ福岡カッ渡航届

- 明治参拾八年六月廿四日出發兵當事件ニ付上京同廿七日午前八時着京麴町五丁目柳川平助方ニ宿泊七月五日迄ニテ用濟六日出發七日午前七時大坂ニ着同所ニ於テ立花熊太郎氏ヲ訪問用向ヲ辨シ同日午前十一時五十八分大坂出發同九日午後二時頃帰宅
- 明治参拾八年七月十日市長任期滿限ト為ル
- 明治参拾八年七月十四日松江市長就任ノ義裁可ヲ經タル旨七月拾八日通知ヲ受リ
- 明治参拾八年十月三日出發凱旋軍歡迎準備協議之為メ廣島市ニ出張七日八日兩日協議會議了各豫備病院慰問十日吳ニ往キ海軍病院慰問直チニ帰廣全日午後四日廣島出發十三日午前九時廿五分帰宅
- 明治参拾八年十一月廿六日出發後備第廿一聯隊凱旋歡迎之為メ濱田ニ出張又同三十日凱旋同夜那賀郡會議事堂ニ於テ將校ニ對スル歡迎宴會ヲ開カル十二月一日午后二時練兵場ニ於テセラル、聯隊旗返納式ニ列ス同夜曾我後備聯隊長ノ招待ニ應シ將校集會所ノ宴會ニ列ス二日午前七時濱田出發三日午後平田町羽ニ重製造所ヲ視察シ四日午前十時帰松ス
- 明治参拾八年十二月九日出發師團増設問題付上京同廿二日東京出發同廿六日帰松
- 明治参拾九年二月三日知久重徳ヲ福岡禄太郎ノ養子縁組届出ツ
- 明治参拾九年二月七日出發境ノ郵船會社船ニ乘リ松平伯爵御見舞ノ為メ静県沼津ニ趣キ同廿二日沼津發廿五日帰宅
- 明治参拾九年二月二十五日出發招魂祭並軍人歡迎ノ為メ濱田へ出張廿七日濱田着三月一日神式招魂二日佛式招魂祭ニ臨ミ三日歡迎會ニ出席四日出發六日帰宅
- 明治参拾九年五月四日境ノ永田丸ニ乘リ舞鶴ノ大坂ニ出張五日大坂へ着七日同所出發舞鶴ヲ經テ九日帰宅
- 明治参拾九年六月二月出發境港ノ熊本丸ニ乘船敦賀ニ上陸同四日東京ニ着麴町五丁目五番地相模屋ニ投宿ス今回之用向ハ馬瀉浚渫ノ為メ市公債參萬五千圓新起許可稟請ノ為メニシテ許可ノ事決定廿一日出發帰途大坂ニ立寄り廿五日帰松ス此行東京ノ北尾瀨一郎夫婦同伴ス
- △^{百選}戸籍吏認印 明治卅九年六月廿七日ヨリ使用
- 明治参拾九年十月十八日出發境港ヨリ阪鶴丸ニ乗船二十日午前九時東京ニ着神田連雀町十八番地佐佐木利助方ニ投宿ス今回ノ用向ハ兵營ヲ松江ニ置カル、ノ運動ナリ十一月廿二日午後六時新橋發廿五日帰松スへ後
- 明治参拾九年十月八日出發招魂祭ノ為メ濱田ニ出張九日濱田着佐々木ニ投ス同十二日濱田發十四日帰松スへ前
- 明治四拾年一月二十日出發兵當問題ノ為メ上京同廿三日着相模屋ニ投ス三月十七日東京出發同二十日帰松ス
- 明治四拾年十一月十八日出發招魂祭參列ノ為メ濱田へ出張佐々木ニ投ス廿二日濱田發廿三日午後帰松ス
- 明治四拾老年四月廿八日左ノ辞令ヲ受ク
- 明治三十七八年事件ノ功ニ依リ勲六等單光旭日章及金四百圓ヲ授ケ賜フ
- 明治三十九年四月一日
- 賞勳局總裁從二位勲一等子爵大給恒八。勲六等單光旭日章
- 明治四拾老年九月八日向拾ケ年二年々金參圓宛(合計參拾圓)出

雲育英會ニ醸出スルノ承諾書ヲ該會長松平伯爵ニ提供ス

○明治四拾叁年九月廿四日日本赤十字社有功章ノ贈與ヲ受ク

○明治四拾叁年十一月廿二日松江出發招魂祭ニ参列ノ為メ濱田二出張廿四日着翌廿五日招魂祭済上出發廿八日帰宿此度モ新町佐々木正次郎方ニ投宿ス

○明治四拾貳年五月三日松江出發招魂祭参列之為メ濱田出張五日着佐々木正次郎方投宿六日招魂祭ニ参列七日出發九日帰松ス

○明治四拾貳年五月二十九日出發赤十字總會参列ノ為メ上京三十一日午前七時過着京芝區愛宕町二丁目月見館ニ投ス六月八日午後六時三十分東京新橋発同九日午後一時半舞鶴着乗船三時出帆同十日午前六時境港着八時三十五分帰松ス

○明治四拾叁年十一月廿四日弘道會松江支會評議員ヲ辞ス

○明治四拾四年三月十八日出發鐵道院機械工場位置ノ義陳情ノ為メ上京廿日午後二時着京麴町五丁目柳川平助方ニ投宿廿八日東京出發三十一日四時三十分帰松

○明治四拾四年七月拾三日松江市長任期満了ニ付退任ス此日事ムヲ高橋助役へ引継ク

○明治四拾四年七月拾五日付ヲ以テ退隱料請求書ヲ出スハ㊦ 退隱料請求書ニハ此實印ヲ用ユ將來同印ヲ用ユヘキ事

○明治四十四年七月十九日退隱料証書ヲ受領ス

○明治四十四年七月十九日松江市ヲリ在職中ノ慰勞トシテ金壹千貳百圓ヲ贈ラル

○明治四十四年七月十九日赤十字島根支部長ヲ委員長在職中ノ慰勞トシテ金百五拾圓ヲ贈ラル

○明治四十四年七月十九日愛国婦人會島根支部長ヲ妻マツヘ退職ニ付謝意ヲ表スル為メトテ目録帶地代金五拾圓ヲ贈ラル

○明治四十四年八月九日大日本武徳會島根支部演武場建築委員囑託ヲ解キ硯箱老面ヲ贈與セララル

○明治四拾四年八月廿一日辨護士登録ニ付左ノ通知ヲ受ク

松江地方検事局第四二〇一號

辯護士名簿登録通知書

第四拾壹號

明治四十四年八月廿一日登録

右及通知候也

明治四十四年八月廿一日

松江地方裁判所検事局

辯護士福岡世徳殿

○明治四十四年八月廿二日辯護士會長ヘ左ノ通り届置

入會届

松江地方裁判所検事局第四拾壹号ヲ以テ明治四十四年八月廿一日辯護士名簿登録済ニ付貴會ヘ入會致度此段及御届候也

明治四十四年八月廿二日

松江市北堀三十一番地

福岡世徳

辯護士會長小川善淵殿

○明治四十四年十一月四日松江市教育會長ヨリ本會總會ノ議決ニ依リ名譽會員ニ推選ストノ通知ヲ受ク

○明治四拾四年十一月六日日本赤十字社島根支部商議員ヲ囑託セラ

ル

○明治四拾四年十二月十七日佐藤喜八郎岡崎運兵衛森脇甚九郎三島
佐次右衛門大島新四郎尾原佐七織原万次郎桑原羊次郎山内佐助福村
弥一郎古津元市山本権七清原宗太郎山口卯兵衛田中助次郎森脇儀兵
衛中島虎之助河内忠助佐藤球三郎三原紋右衛門森山祥藏中西熊三郎
金沢傳十郎持田保一郎森脇佐平氏ヨリ退任記念トシテ金時計料金百
圓ヲ贈与セラル依テ此金額ヲ投シテ金時計ヲ購入ス

○明治四拾五年参月貳拾壹日和田見本龍寺墓地ニ埋葬シアル歴世ノ
遺骨ヲ松江市北共同墓地ニ改葬合祀ス

○明治四拾五年五月貳拾日衆議院議員当撰ノ告知ヲ選舉長ヨリ受ク

○明治四拾五年五月貳拾壹日衆議院議員当撰ノ承諾届ヲ出ス

○明治四拾五年六月八日出發上京政友會代議士會ニ臨ミ同十四日東
京出發十五日帰宅ス

○大正元年八月十六日出發臨時帝國議會召集ノ為メ上京廿一日議長
副議長撰擧廿二日全委員選舉各部ノ部員ヲ定メ議會成立廿三日開
院式ヲ行ハセラレ廿四日臨時豫算議決廿五日休會廿六日閉院式ヲ行
ハセラル同日午後三時政友會代議士會開會同日午後七時東京出發
同廿七日午後七時三十五分帰宅

○大正元年九月二日土蔵建築届ヲ松江市役所ニ提出ス

○大正元年九月五日勲六等ノ勲記ヲ受領ス

○大正元年九月九日出發明治天皇御大葬參列ノ為メ上京十二日靈柩
拜禮十三日御大葬ニ參列十四日東京出發十五日午後七時三十二分帰
宅ス

○大正元年十月十五日島根授産會評議員ノ囑託ヲ受ク

○大正元年十一月十五日付ヲ以テ東京市赤坂區溜池町二番地東亞同文
會本部ヨリ貴下今般根津一大源武慶兩氏ノ紹介ニヨリ入會御申込ニ
付承認ストノ通知アリ

○大正元年十一月廿六日改元記念ノ為メ邸内北ノ境界線中央ヨリ東
ノ境内ヘ枚拾本ヲ手植ス

○大正元年十一月廿六日島根授産會ヘ入會ス

○大正元年十二月二十日出發帝國議會ノ為メ上京同二十一日着柳川
平助方ニ投ス同二十八日東京出發二十九日帰宅ス

○大正元年一月十六日出發上京帝國議會十七日着京四月二日東京出
發同三日帰宅ス

○大正元年四月七日出發上京政黨用同八日着京九日東京出發同十日
帰宅

○大正元年四月二十四日出發妻ヲ携ヘ上坂姉見舞同日着坂停車場付
近東雲館ヘ投宿同廿五日大坂出發同日帰宅ス

○大正元年八月八日出發上京政黨用同九日東京着同十一日東京出發
同十二日帰宅

○大正元年十二月十九日出發第三十一議會出席ノ為メ上京二十日午
前九時着京柳川平助方ニ投ス同月二十七日午後三時五十分新橋發二
十八日午後七時半帰宅

○大正三年一月十六日出發上京同十七日午前九時着京柳川平助方ニ
投ス同年四月二日新橋發同三日午後七時半帰宅ス

○大正三年五月一日出發臨時議會ノ為メ上京同二日午前九時新橋着
柳川平助方ニ投ス同年同月九日新橋發同十日午後七時帰宅ス

○大正三年五月二十日出發昭憲皇太后陛下ノ御大葬參列ノ為メ上京

同二十一日午後八時三十分新橋着柳川平助方ニ投宿同二十四日午後八時ヨリ御大葬ニ列シ同二十五日午前八時三十分新橋發同廿六日午前九時六分帰松ス

○大正三年六月十五日午後出發臨時帝國議會ノ為メ上京同十六日午後八時三十分新橋着柳川平助方ニ投宿同三十日午後三時五十分新橋發七月一日午前五時三十分京都着桃山御陵参拜十時二十五分京都發午後四時城崎へ着下車西村ニ投宿七月二日午前六時四分城崎發午後一時五十分帰松

○大正三年七月十二日午前十時十三分發廣島行之為メ午後九時姫路着十三日午後十二時二十二分姫路發午前八時廣島着長沼ニ投宿又同日午後四時ヨリ小久保博士ノ宅ニ於テ刀劍ヲ觀ル同十四日午前八時廣島發宮島ニ往キ岩総（紅葉茶屋ニテ午餐午後七時帰廣同十五日午前六時四十一分廣島發午後十時鳥取着下車新但見屋ニ投宿同十六日午前九時鳥取發午後一時五十六分帰松ス

○大正三年八月三十一日出發臨時帝國議會ノ為メ上京水害ノ為メ東海道静岡以東鉄道不通ニ付九月一日静岡大東館ニ宿泊九月二日江尻ニ於テ乗船全日午後五時横濱着上陸直チニ瀛車ニ乗り午後七時拾五分新橋着柳川旅館ニ投ス九月十一日午前七時四十五分新橋發午後八時三十分大坂着山陰線ニ乗替九時十分大坂發同十二日午前九時六分帰松ス

○松九月十九日發病急性肺炎ニテ九月廿七日午前三時死去ハマツ死去

○大正三年十二月一日出發帝國議會ノ召集ニ依リ上京同二日新橋着柳川旅館ニ投

十二月廿五日衆議院解散ヲ命セラレ同廿九日東京駅出發三十日午前九時五分帰松ス

○大正四年一月十五日左之寄留届ヲ市役所ニ出ス
居所寄留届

本籍島根県松江市南田百五十三番地

戸主□□宗之進妹

非世帯主

□□ミエ

慶應元年三月五日生

大正四年一月十一日松江市北堀三十一番地福岡世徳方へ居所寄留届出ス
右及御届候也

大正四年一月十五日

島根県松江市長高橋義比殿

ハ大正八年一月廿一日退去二月八日届出

○大正四年一月二十三日出發上京同月二十四日東京ニ着柳川旅館ニ投ス此夜目的ノ人ト會合徹夜談話ス一月廿五日東京出發同廿六日午後七時帰松ス

○大正四年一月參拾日左ノ寄留届ヲ市役所ニ出ス

居所寄留届

本籍嶋根縣簸川郡高濱村大字里方四拾壹番屋敷

平民戸主□□助太郎貳女

非世帯主

和田エツ

明治貳拾貳年七月貳拾八日生

大正四年壹月貳拾八日松江市北堀參拾壹番地福岡世徳居所寄留届出ス
右及御届候也

大正四年三月拾日

届出人

世帯主 福岡世徳

右及通知候也

大正四年四月一日

△大正四年十月廿日退去ノ旨同月廿三日届済▽

松江地方裁判所検事局

○大正四年二月廿四日夜行列車ニテ出發翌廿五日名古屋ニテ下車阿

福岡世徳殿

多氏ヲ訪ヒ同夜乗車廿六日午前七時半東京着柳川ニ投シ直子ニ原敬

○大正四年四月三十日松平伯爵御來松御滞在中五月十三日青磁卓香

氏ヲ訪ヒ午後三時十五分東京出發廿七日午後七時帰松ス

爐ヲ拜受ス

○大正四年三月廿六日午前七時五十二分出發午後七時三十分京都着

○大正四年六月廿六日午前七時五十二分發列車ニテ東上翌廿七日午

停車場前吾妻旅館内藤音吉方ニ投宿同廿七日名所古蹟ヲ尋訪シ翌廿

前九時三十分東京驛ニ着府下豊多摩郡淀橋町角筈百八十二番地ニ投

八日午前九時三十分京都發桃山御陵ニ参拜零時三十分桃山駅發午後

シ一泊廿八日午後三時十五分東京驛發廿九日午前五時過京都着下車

六時十五分大坂港町ニ着停車場前敷島館ニ於テ休憩晚餐ヲ喫シ同九

七時二十分發山陰線列車ニ乗換午後七時帰松ス

時夜行列車ニ乘リ廿九日午前九時帰松ス

○大正四年七月七日日本赤十字社島根支部商議員ノ囑託ヲ受ク辭令

○大正四年三月三十日辯護士名簿（ト）取消請求書ヲ松江地方裁判所

書日付六月廿六日参考前任期満了ニ付更ニ囑託

検事局ニ提出ス

○大正四年十月廿五日左ノ寄留届ヲ市役所ニ出ス

辯護士名簿登録取消請求書

居所寄留届

世徳儀松江地方裁判所辯護士名簿ニ登録済ニ候處都合之義有之候付

本籍 松江市母衣百七十二番地

該名簿登録取消相成度此段請求候也

戸主良姉土族

大正四年三月三十日

世帯主ノ婢 □□キミ

島根縣松江市北堀三十一番地

明治三十二年九月五日生

弁護士 福岡世徳

司法大臣尾崎行雄殿

右及御届候也

○大正四年四月一日松江地方裁判所検事局左ノ通知ヲ受ク

大正四年十月廿五日

松江地方検事局第八七九號

届出人世帯主 福岡世徳

通知書

大正四年四月一日其許辯護士名簿登録ヲ取消ス

○大正五年一月九日午前六時二十分出發上京十日午前九時東京驛着

神田連雀町十八番地佐々木利助方ニ投宿同十六日迄滞在同日午後四時東京驛發車十七日午前五時半京都着下車吾妻館内藤音吉方ニ投宿御所並ニ条離宮大饗宴会場拝観ニ日滞在十九日午前七時二十分京都發同日午後七時帰松ス

○大正五年二月十八日財團法人島根授産會ノ評議員ヲ辞任ス

○大正五年八月二十八日四月一日付ヲ以テ大正三四事件ノ功ニ依リ

勲四等瑞寶章ヲ授ケ賜フハ。勲四等瑞寶章

○大正六年一月十八日弘道會松江支會評議員ヲ辞任ス

○大正六年二月廿六日出雲育英會松江支部評議員ヲ辞任ス

○大正六年四月廿五日出發上京同廿六日午前八時三十分東京驛着麴町五ノ五相模屋ニ投ス五月二日四谷區東信濃町十六番地信濃館森セ

んニ轉寓五月廿八日午後四時東京出發同廿九日午後六時五十八分帰松

○大正六年八月七日左之寄留届ヲ市役所ニ出ス

居所寄留届

本籍 松江市北堀百五十八番地

戸主 □□ 夫一郎庶子女平民

世帯主ノ婢 □□ 末子

明治三十五年十二月五日生

右大正六年八月一日松江市北堀三十一番地福岡世徳方へ居所寄留

右及御届候也

大正六年八月七日

届出人世帯主 福岡世徳

松江市長高橋義比殿 大正六年十一月十一日退去ノ旨同年十二月四日届

出

○大正六年九月三日午前八時八分出發米子ニ於テ下車更午前十一時

二十分米子發之瀨車ニ乘リ午後十一時過大坂着梅田停車場正面南入

東雲館ニ投ス同七日午前十二時前大坂發午後六時三十二分豊岡着豊

岡町竹井旅館ニ投ス同十一日午後十二時四十六分豊岡發午後六時三

十七分帰松ス

○大正六年十二月四日左之寄留届ヲ市役所ニ出ス

寄留届

本籍 島根縣八束郡千酌村大字稻積七十一番地

戸主 □□ 万四郎三女平民

世帯主ノ婢 □□ マス

明治三十年四月十日生

右大正六年十二月一日松江市北堀三十一番地福岡世徳方へ寄留

右及御届候也

大正六年十二月四日

届出人世帯主 福岡世徳

市長宛 大正七年三月二十日退去之旨同年四月十九日届出ツ

○大正七年三月四日出發京都行同日午後七時京都着松平伯爵ヨリノ

御迎ニ随ヒ魅屋町柵屋ニ投宿五日松平伯爵之御案内ニテ南禅寺下瓢

亭ニ於テ午餐ノ饗ヲ受ク六日午前停車場前吾妻館内藤音吉方ニ轉宿

同日嵐山ノ勝ヲ探リ七日宇治ニ住キ平等院聖興寺等ヲ歴觀シ宇治橋

際入舟ニ於テ午餐ヲ喫ス八日午前八時京都發同日午後七時帰松ス

○大正七年三月十三日立憲政友會島根支部幹事辞任届ヲ出ス

○大正七年五月六日左ノ寄留届ヲ出ス

本籍 簸川郡出東村大字三部市貳千參百九拾七番地

戸主□□德市貳女平民

世帯主ノ婢 □□トヨ

明治參拾貳年拾月拾日生

右大正七年五月一日松江市北堀三十一番地福岡世徳方へ寄留
右及御届候也

大正七年五月六日 届出人世帯主 福岡世徳

市長宛 へ七月一日退去之旨七月廿三日届出

○大正七年七月六日午前十時十三分出發鳥取縣御來屋行後藤旅館へ
宿泊翌七日午前出發帰松ス

○大正七年七月九日午前六時十五分出發米子ニ於テ下車同九時同所
出發鳥取縣東伯郡倉吉町へ住キ同町魚町岸本旅館ニ投宿同十二日午
前十時過同所出發午後二時帰松ス

○大正七年八月十九日午前八時八分松江發園山氏ト共ニ上京午後七
時京都着下車乗替八時二十分京都發翌二十日午前九時東京驛着麴町
柳川旅館ニ投宿

同廿八日午後四時東京驛發單獨帰途ニ就ク廿九日午前五時京都着下
車吾妻館ニ於テ休憩朝飯ヲ喫シ午前八時發山陰線ニテ午後七時松江
驛着帰宿

○大正七年十月十三日午前八時八分松江驛發境港ニ於テ園山氏ト共
ニ聯絡船對馬丸ニ乗船午後五時出帆翌十四日午前五時舞鶴港着上陸
八時四十分發瀛車ニ乗車午前十一時過京都ニテ下車昼飯午後十二時
五十八分列車ニテ京都發翌十五日午前五時東京驛着柳川旅館ニ投ス
廿三日迄滞京

同月廿四日午前十一時東京驛發翌廿五日午前四時八分京都着園山氏

[498]

ト別レテ下車驛前旅館ニ於テ休憩朝飯ヲ喫シ午前十時過京都發正午

過綾部着下車亀嘉旅館ニ投宿廿六日午前十二時綾部發午後二時舞鶴
着下車清和樓ニ投宿翌廿七日午後二時人力車ニテ海舞鶴ニ着午後四
時聯絡船御嶽丸ニ乗船五時出帆翌廿八日午前七時境港着上陸午前八
時四十分境發十時四十分帰松

○大正七年十月三十日松江市功績状十月十九日日付並功勞章ヲ受ク

○大正八年八月四日付日本海員掖濟會退會届ヲ出スへ海員掖濟會退
會

○大正八年九月一日午后六時廿七分松江驛發上京松廣聯絡鉄道問題ニ
日午前六時京都着下車同四十六分東京行列車ニ乗換午後十時半東京
驛着相模屋旅館ニ投ス九日迄滞在同月九日午後五時廿分東京發十日
午前六時五分京都着下車驛前右角ノ旅館ニ於テ朝飯ヲ喫シ同八時發
(山陰線)午後七時三十九分帰松途佐野正雄氏ト同行ナリ

○大正九年一月廿四日日本日ノ日付ケヲ以テ島根縣協會へ退會届書ヲ
發送スへ島根縣協會ヲ退會ス

○大正九年四月廿六日出發上京向坂氏同行同日午後六時廿七分發翌
廿七日六時京都着同五十七分京都午後十時三十分東京着相模屋ニ投
宿ス

同廿九日午後七時東京發三十日午前六時五十七分京都着同八時京都
發午後七時三十九分松江着

○大正十一年一月十五日京都行夜行列車ニテ上京江角漁港修築十六
日午前六時京都着乗換同六時五十八分京都發午後十時三十分着京相
模屋旅館ニ投宿同二十六日迄滞在

同二十七日午前九時三十發特急列車ニテ出發午後七時三十分京都着

吾妻館ニテ一泊翌二十八日午前八時發京都出發午後七時七分松江着
 ○大正十二年十一月六日邸内東南隅ニ松樹ヲ栽植ス當時枝四段アリ
 タリ

○大正十三年三月九日松江郵便局ノ請求ニ依リ印鑑届ヲ提出スハ印
 鑑④▽

○大正十三年八月十二日日本赤十字島根支部商議員ヲ辞任ス〔完〕

以上

福岡世徳氏手記

大正十三年十一月二十五日禄太郎上海ルテ死亡の為此この

後の手記なし〔福岡知恵子氏筆〕

明治三十六年九月

在京日記

タテ 二五・〇 cm
 ヨコ 一七・〇 cm
 本文 一四丁

明治三十六年九月二十日 雨天 日曜日

午前七時五十五分新橋ニ着高橋慶太郎ヲ内幸町旭館ニ訪フ既ニ一昨
 十八日午后六時新橋發ノ瀛車ニテ帰途ニ就ケリトノ途中無事着ノ
 電報ヲ高橋義比二本日到着ノ通知ハカキヲ禄太郎ニ發シ八時三十分
 相模屋ニ投ス○四時留守ヘ書状ヲ發ス○四時松平伯御邸ニ伺候伯爵
 二拝謁今回上京ノ事件ヲ言上セシニ御快諾御夜食ノ饗ヲ受ケ安井山
 口両氏ノ宅ヲ訪ヒ六時帰宿○高橋助役ニ書状ヲ發ス○夜ニ入り禄太
 郎来リ十時帰ル

同廿一日 雨天 月曜日

午前七時千家男爵ヲ其官邸ニ訪ヒ上京ノ事件ヲ頼談シ九時半ヨリ松
 平子爵御邸ヲ訪問シ子爵ニ拝謁上京ノ事件ヲ上陳シ十一時松平伯爵
 邸ニ伺候昼飯ノ饗ヲ受ケ午後一時過伯爵御帰邸暫クシテ拝謁千家男
 ノ意見ヲ上陳セシニ会合ニハ及ヒ間敷トノ事伯爵御話ノ先ハ

大浦 松方 松浦内務秘書官 西園寺公等 猶西園寺公ノ添書
 ヲ以テ桂総理大臣ニ面會ノ御見込

午後三時半帰宿ス禄太郎先ツ来リ待ツ○留守ヲ小包到着シ居レリ
 夜ニ入り谷清瀬氏來訪禄太郎ハ八時前ニ谷氏ハ九時帰ラル

同廿二日 雨天 火曜日

午前六時半出宿若槻氏ヲ訪ヒ上京ノ件ヲ頼談ス同氏ノ談

府縣ノ廢合ハ不可ナキモ現今ノ如ク自治制ノ儘ニテハ之ヲ廢合
 スルモ各国自カラ利害ヲ異ニスレハ圓滿ニ地方ヲ益スル能ハス
 故ニ廢合スルナレハ自治制ヲ改メ縣庁ハ政府ノ出張所ノ如クシ
 長官ノ権限ヲ擴メ縣會等ヲ廢スレハ実効アルヘシ然レモ現政府
 ハ自治制ノ儘ニ廢合スル見込ナランモ之ヲ議會ニ提出シ議會ノ
 反對アレハ強テ之ヲ貫クト云フ程ノ勇氣ハ無カル可ク所謂議會
 操縦ノ方畧ナルヘク議會ニ於テモ反對多ク到底衆議院ヲ通過ス
 ルヲ難カルヘシ故ニ松江ノ縣廳ヲ他ニ移サレントヲ防クニハ非
 廢合論ヲ唱フル方利ナルヘシ云々

八時半山口宗義氏ヲ訪ヒ上京ノ事件ヲ相談○今村長賀氏ヲ訪ヒ勝光
 刀ノ研ヲ依頼ス○伊藤大八氏ヲ訪ヒ末松男ニ面會_{二字不明}紹介ヲ頼談十時
 半帰宿ス○今朝留守ヘ小包到達ノ通知状ヲ發ス○向坂氏ノはかき高
 木謹之助氏ノ書状岡本氏ノ書状共ニ到達ス○夜ニ入り禄太郎来リ九

時帰ル

同廿三日 大雨昨夜半ヨリ注クカ如ク降続キ猶歇マス 水曜日

午前六時半園山氏へはがきヲ發ス夜来ノ大雨頃刻モ歇マス十一時ヨリハ尤劇甚随テ風モ強ヲ加ヘ往来スル者困難ノ状アリ正午前暫時十分間小雨トナリシカ忽チ又大雨ト為リシモ暫時十五分^ノニシテ又漸ク小雨トナリシカ午後一時過ヨリ又大雨ト為リ二時ヨリ漸ク小雨ト為ル風ハ猶収マラス五時前ニ至リ雨歇ミ日光漏射遂ニ快晴トナル○五時梅氏ヲ訪問上京ノ事件ヲ頼談シ夜食ノ饗ヲ受ケ八時四十分帰宿ス同廿四日 晴天 木曜日

午前第七時半谷末氏來訪八時帰ラル○八時半高橋義比氏へ書状廿三日付ヲ發ス北尾氏不在元田肇氏九州行不在谷清瀨氏ヲ訪ヒ十時帰宿ス○午後一時ヨリ千家氏大岡育造氏不在ヲ訪ヒ渡部和光ヲ訪フ和光氏ハ越後新發田行留守妻氏ト暫時談話浅草ノ鉄道馬車ニ乘リ上野公園ヲ散步五時ノ園山氏ヲ訪ヒ全氏方ニテ宿泊ス

同廿五日 半晴 金曜日

午前八時園山方ヲ辞シ原田越城氏ヲ訪フ不在松平子爵邸ニ伺候シ十一時全邸ヲ辞シ遊就館ヲ觀富士見町ニテ昼飯ヲ喫シ午後一時北尾氏ヲ訪ヒ暫時談話二時帰宿ス不在中北尾瀨一郎片岡元甲岩崎瀧平諸氏訪ハル○三時法律新聞社ニ為替ヲ發送ス○午後四時愛宕下町二丁目研師菊井金次郎ニ廣次短刀ノ研ヲ依托シ老円ヲ以テ廿八日迄ニ研上ケヲ約シ五時半帰宿ス○八時禄太郎來リ十時去ル

ハ子爵談

府縣廢合按ハ政府ヨリ提出スヘシ併シ烟草製造專賣按ヲ通過セシムル為メノ

掛引按ナルベシ云々

又久保田文部大臣ノ新任ニ二三ノ大臣カ決定セン豫算ニテ実行スヘシトノ條

件付ノ由云々

同廿六日 晴 土曜日

午前六時留守ノ書状到着ス○八時ヨリ大岡育造へ岸清一事ム所ヲ訪フ大坂行廿九日帰京ノ筈大浦通相官邸及ヒ通信省不在明日官邸ニ移轉ノ筈松田正久江原素六甲州行不在今晚帰宅ノ筈河野廣中諸氏ヲ訪問十一時半帰宿ス○不在中園山勇氏訪ハル○午後一時留守へ書状ヲ發ス○午後三時山口宗義氏來訪左ノ談話アリタリ

例ノ件大藏總務長官ニ就キ探リ見タルニ實際知ラサルモノ、如

シ大藏省ニ於テハ豫算ノ側ニ於テ金額ヲ定メ其金額内ニ於テ廢

合ヲ為ス次第二テ何縣ヲ廢シテ何縣ニ合スル等ノ事ハ關係無シ

ルシ府縣ノ廢合按ヲ帝國議會ニ提出スル事ハ決定シ居ルモノ、

如クナレハ未ダ樞密院ノ議ニハ付セラレス此先ハ樞密院ニ於テ

不同意ナレハ格別否ラサレハ内閣内定ノ儘議會ニ提出セラルヘ

シ而シテ佐賀、奈良、宮崎、福井、四国ノ或ル縣ノ如キハ廢縣

ト為ルヘシ中国ノ縣ハ毫モ知レス或ハ廢縣無カラモ難計兎ニ角

是以上ノ事ハ知レス猶他ノ方法ヲ以テ聞合セ分リ次第報知スヘ

シ云々

午後三時半去ラル○四時半禄太郎五時笹岡元甲氏來ル共ニ夜食ヲ饗

ス八時兩人共去ル谷清瀨氏來訪十時去ラル

笹岡氏來訪ノ用向ハ軍馬記念碑建設費募集ニ付盡力ヲ頼ムトノ事

同廿七日 曇り 日曜日

午前八時出宿梅氏ヲ訪フ昨夜來客今晡四時寝ニ就カレ臥寝中トノ

ニテ直チニ去リ九時半帰宿ス○午後二時小山善氏訪ハル暫時對話ノ

後去ラル〇二時半〆四時マテ近傍ヲ散步シ帰レハ岩崎瀨平氏來訪先
ツ在リ暫時談話五時過帰ラル

同廿八日 半晴 月曜日

午前八時梅氏ヲ訪フ同氏ノ談左ノ如

吉原地方局長ニ内々問フタルニ島根縣鳥取合併ノ議モ始メニハ
有之シモ遂ニ其議ハ止ミタルトナレハ多分心配ハ有之間敷トノ
事ナリシヲ以テ猶萬一合併ノ議アルモ縣庁ノ所在地ノ事ハ能々
話シ置キタレハ將來若シ變ルトアレハ通知シ呉ルニ都合ナレハ
其際ニハ内報スヘシトノ事

十時過原田越城氏ヲ訪フ全氏ノ談左ノ如シ

府縣廢合ノ事ハ政府ヨリハ提案スヘキモ議會ニ於テハ通過セサ
ルヘシ猶若島根鳥取合併スルトナレハ縣庁移轉論ハ必ス起ル
ヘキモ費用ノ點ニ於テ其儀行ハルニ無カルヘシ云々

牛込島金ニ於テ昼飯ヲ喫シ刀劍會事務所ニ出テ會費ヲ支拂フ全事務
所書記ノ扱ヒニテ左ノ刀ヲ觀ル

備前景光刀 在銘

堀井胤吉短刀 四

綾小路定利刀 上ケ物

備前長船絡定 刀

近江大掾忠廣 間寸

行光 刀在銘 正當ニアラストノ事

備前物刀 上ケ物無銘

北国物刀 上ケ物無銘

午後二時半帰宿不在中北尾氏訪ハル〇途中莫ノ價ヲ問ヒシニ菊世界

一箱老円十四錢常磐二百本入三十八錢ナリトノ事〇午後四時ヨリ松平
伯御邸ニ伺候御夜食ノ饗ヲ受ケ八時帰宿ス〇禄太郎來ル月一日午
前禄太郎方即チ本妙寺後出丸館散歩スル筈十時帰ル

同廿九日 雨 火曜日

午前六時半高橋義比及子松長太郎二氏ノ書狀到達ス〇八時大浦通信
大臣ヲ訪フ其談左ノ如シ

鉄道ノコトハ是迄局外ヨリ見テモ山陰道ノ不便ナルコトハ大ニ
感セシ所今其局ニ當ル以上ハ經濟ノ許ス限り速ニ敷敷スルコト
ヲ圖ル考ナリ云々

此度ノ行政整理ハ内閣ニ於テハ國家百年ノ計ヲ立テ苟クモ是ト
信セシコト仮令如何ナル障礙ニ逢フモ屈スルコト無ク之ヲ貫ク
覚悟府縣廢合ノ如キハ内務ノ主管ナレハ未ダ其成按ハ聞カサレ
任是迎モ内閣ニ於テ決定セシ以上運動等ノ為メ決シテ動クコト
無シ云々

猶四国ノ各縣廢合ノ事新聞ニ上ルヤ各縣衆議院議員上京シテ運
動ヲ始メ最初徳島香川愛媛ノ三縣ヲ合シ丸亀ニ縣廳ヲ置クトノ
事新聞紙ニ掲クルヤ香川縣ノ有志者ハ賛成ノ意ヲ表セシカ其後
更ニ徳島縣ハ存置シ愛媛香川ノ兩縣ヲ合シ松山ニ縣廳ヲ置クト
ノ事新聞紙ニ掲ケタルニハ香川縣ノ運動者ハ忽チ反對ノ運動
ヲ始メタリ如此各縣運動委員ノ陳情ニ依テ内閣力動ク様ノコト
ニテハ一モ効ヲ奏スルモノニアラス云々

通相ノ官邸ヲ退キ愛宕下町研師方ニ至リ依頼シ置シ短刀ヲ受ケ取り
松平伯御邸ニ伺候シ昨夕ノ御札ヲ陳ヘ山口氏ニテ私談數刻十一時過
赤坂古物店ニ於テ刀劍ヲ見赤坂通り筋ニテ昼飯ヲ喫シ江原素六氏ヲ

訪フ不在ニ付直チニ帰宿ス其時午後一時〇四時高橋義比宛書状ヲ發ス

同三十日 曇 水曜日

午前六時三十分山口宗義氏ヨリ明一日午後五時前後ヨリ来ルヘシトノ事ヲ電話ヲ以テ交渉アリタリ〇八時伊藤大八氏ヲ訪ヒ府縣廢合ノ件ヲ頼談ス本日ハ本部へ出勤且ツ取調物アリトテ頗ル多忙ノ様ニテ肝要ノミヲ陳ヘテ去ル麴町郵便局ニ出テ為替金ヲ受取り八時半元田肇氏ヲ訪フ国民協會開散ノ顛末ヨリ高橋慶太郎弁護ノ事松江ニ於ケル演説会ノ事等ヲ談話ノ後府縣廢合ノ一件ヲ頼談セシニ此事ニ付テハ左ノ如ク話サル

大分縣モ廢スルトノ説アレハ分明ナラス島根鳥取合併ノ事ハ仮令島根ヲ廢スルモ鳥取ニ縣廳ヲ置クハ萬々アル可カラス縣廳ハ必米子ナルヘシ米子ハ中国鉄道モ畢竟通スルナルヘク且ツ甲縣ヲ廢シテ乙縣ニ合スルト云フハ甲縣ハ非常ニ感情ヲ惡シクスルヲ以テ寧ろ兩縣ヲ廢シ新タニ一県ヲ置クコト、ナレハ雙方ノ感情ハ大ニ緩和ス兎ニ角話ノ次第ハ承ハレリトノコト大分縣ハ之ヲ廢スルトスレハ福岡廢ニ合併ハ不同意ナリ云々

午前十時帰宿ス〇不在中原田越城氏訪ハル〇十時五十分禄太郎ヨリ本日午後三時來訪ノ電話アリ〇午後零時三十分江原素六氏ヲ訪ヒ府縣廢合ノ件ヲ依頼ス同氏談

府縣廢合之事ハ未ダ政府調査ノ内容モ聞カス本會ニ於テモ縣會議員撰挙ノ為メ各地へ出張等ニテ未ダ調査會ヲ開カス然レハ兩三日内ニハ調査會ヲモ開キ猶政府ノ内容モ探クル積リナレハ知レタル上ハ通知ヲ為スヘク且ツ可相成島根縣ノ利益ニ盡カスヘ

シ云々

江原氏ヲ退キ桜井駿氏ヲ訪フ不在ニ時帰宿ス〇大岡氏ニ江原翁ニ面會通知ノ書面ヲ發ス〇三時禄太郎来リ上海行弥確定ノ旨ヲ報ス暫時對話四時半帰ル〇七時留守並高木謹之助へ書状發送

十月一日 曇後雨 木曜日

午前七時島根新報到達ス〇八時桜井駿氏ヲ訪ヒ府縣廢合ニ付其意見ヲ問ヒシニ同氏ノ談左ノ如シ

一己トシテハ府縣廢合ハ同意ナレハ今之レカ小廢合ヲ為スハ徒ラニ地方ノ騷擾ヲ来スノミニテ不得策ナリ寧ろ今少シ交通ノ便開ケタル上大廢合ヲ行ヒ道廳ノ如キモノヲ置キ郡役所ヲ廢シテ便宜ノ地ニ支廳ヲ置キ町村制ヲ改正シテ町村ヲ合併シ町村長ハ有給ノ制ト為シ三十円乃至四十円ノ月俸ヲ与フルコト、スレハ其人ヲ得ルコトモ難カラサルヘシ(郡長ノ俸給四十五万円、郡役所平均一郡役所八千円府縣費七百万円云々)是レ自己ノ意見ナルカ政府ニ於テハ府縣ノ廢合ハ之ヲ断行シ其範圍十五縣ヲ廢スルト云フコトニ内定セシヤニ聞ク而シテ郡役所ハ之ヲ存置スルコトニ内定セシヤニ聞ク然レハ政府ノ死活問題トハ為ラサルベシ島根鳥取ノ如キハ廢合ノ内ニ加ハリ居ルヤ否不明ナリ若シ之ヲ廢合スルコト、為レハ縣庁移轉ノ問題ハ随テ起ルヘシ御話ノ旨趣ハ委細承知セリ云々

九時半退去松平伯御邸ニ伺候シ禄太郎ニ付テ之御札ヲ述ベ松平長様ヲ訪問シ十一時帰宿ス

時事新報 姫路九月三十日特発

昨日市參事會ニ於テ秋季大演習ノ準備費五千餘圓ヲ可決シ市會ニ

提出シタリ

ハ姫路市ノ大演習準備

午後二時太田臺之丞氏ヨリ書状到達ス○本日園山氏ヨリ電話ヲ以テ
出發ノ日ヲ知ラセ呉レトノアリ○午後七時半出宿小山氏ヘ礼ヲ述
北尾氏全上山口宗義氏ノ招ニ應ス府縣廢合ノ件ニ付全氏ノ談

政府側ニ於テモ府縣廢合案ハ必提出ナルヘキモ必ス通過セシメ
ントノ意思アルニアラス猶久保田ガ文部大臣ト為リシニ付自然
様子ヲ探ルノモ出来得ルナラント歎ニ托シ訪問セシモ始終來人
アリテ遂ニ口出シ出来ス何レ時機ヲ見テ探リ報知スル所アルヘ
シ云々且ツ本日ノ朝日新聞ニ府縣廢合ノコトニ付記事アリシト
テ該新聞ヲ贈ラレタリ
正七時帰宿ス九時禄太郎來リ十時帰ル

朝日新聞記事

行政整理ノ結果廢合セラルル府縣ハ十八ヶ所ニシテ内埼玉縣ヲ
廢シテ東京府ニ合併シ、茨城縣ヲ千葉ニ、山形縣ヲ秋田縣ニ、
滋賀縣ヲ京都府ニ、奈良縣ヲ大坂府ニ、香川縣ヲ愛媛縣ニ
山口縣ヲ廣島縣ニ、佐賀縣ヲ長崎縣ニ、宮崎縣ヲ鹿児島縣ニ
合併スルコト丈ハ畧確實ナルモノ、如シ此外山梨縣ヲ廢スル
コトモ内定シ居レト之ヲ東京府ニ合スルカ静岡縣又ハ神奈川
縣ニ合スルカ分明ナラス又 岐阜縣ヲ愛智ニ合併シ 大分縣
ヲ福岡縣若クハ熊本縣ニ 和歌山縣ヲ兩分シテ其一部ヲ三重
ニ一部ヲ大坂府に移シ 福井石川富山ノ三縣ヲ一縣若クハ二
縣ニ減シ 栃木郡馬ニ縣ヲ何レカ一方ニ合併スヘシトノ説ア
ルモ未ダ之ヲ確報スルヲ得ス尚山陰道ノ島根、鳥取ニ縣ハ小

縣ナレト交通不便ノ為メ其儘存^ルスル筈ナリト

同日 大雨 金曜日

曉來ノ強雨注クカ如ク風亦之ニ随ヒ去月廿三日ノ風雨ト異ナルコト
ナシ○午前八時今村長賀氏ヲ訪ヒ宗近ノ刀廣次ノ短刀及鏢二枚ノ鑑
定ヲ乞フ

宗近刀

伊賀ノ宗近トシテモ不足且ツ中心宜シカラス銘目釘穴共後二
テ抜タルモノ

廣次短刀

正真ナレト相州ノ古キ廣次ニアラス且ツ中心裏先ノ方二寸斗
リ摺リアリ天文頃ノ裏銘アリシモノヲ摺リ落シタルモノカ島
田義助位ニ見ユ

平安城鏢

數良キ鏢ナリ室町時代ノ作ニテ好家ノ賞翫スヘキモノ羨ム
ヘシ御所持アリテ然ルヘシ

木瓜鉄鏢菊桐

格別賞翫スヘキ程ノモノニアラス

九時帰宿○佐々田氏ヲ訪問セント電話ニテ其在不在ヲ問フ国元ニ帰
リ不在本月中旬ニ至ラサレハ帰京セストノ事依テ其後直チニ高木謹
之助ヘ書状ヲ發シテ報知セリ○午後四時前笹岡元甲氏來訪物品ヲ贈
ラル四時五十分去ラル○五時ニ四ツ谷蓬萊亭ニ於テ安井山口兩
ト會食ス月照寺ノ事ニ付安井氏ヨリ左ノ談アリ

三村氏ノ盡カヲ以テ本堂建築ノ為メ醸金セラレシ金元利ニテ千
貳參百円アリ之二月照寺一ヶ年ノ収入ヲ加フレハ千八百円ト為

ル之ヲ以テ六間四面位ノ本堂ヲ建築シ廊下ヲ以テ御靈屋ニ接続シ猶庫裏ヲモ幾分力之ヲ縮メテ本堂ト接スル程ニ西ニ引キ置ク方將來保存ノ為メ得策ナラント思ハル此計畫ヲ以テ設計ヲ立テ平面図ヲ添ヘテ差出サル様足羽ニ話シ呉レヨ猶先年三村氏存命中本堂建築ノ図面設計等出来タル様記憶ス岡本久左衛門氏ニ問ヘハ或ハ同氏ノ手許ニアランカ云々

△松平伯ノ御考ニテハ京都妙心寺等ノ如ク瓦敷ト為シ雨戸無ク硝子戸トシテ將來修繕費ノ懸ラサル様ニトノリ

△直政公御銅像ノ三島ヘ協議ノリ

七時四十分帰宿ス○今朝太田臺之丞氏ニはがきヲ發ス○九時禄太郎来リ松平伯ヨリ賜リ物アリシヲ報知暫時對話ノ後去ル

同三日 曇リ 土曜日

午前八時岸清一氏ヲ訪ヒ事件ヲ頼談シ千家氏ニ暇乞ヲ為シ松平伯邸ニ御礼ニ伺候ス伯爵ノ談ニ

昨日松方伯ヲ訪ヒ尋ネ見タルニ府縣廢合之事ハ聞居ルモ何府縣ヲ廢合スルトノ事ハ未ダ聞カス問合セタル上報スヘシトノ事ナレハ知レ次第報知スヘク若シ不利益ノリアレハ頼ム積リナリ猶西園寺公ヲ明日ハ訪フ積リナリ云々

十一時帰宿ス○十一時半園山伊藤大八両氏ニ書状ヲ發ス○午後一時半神田有斐閣ニ於テ書籍ヲ購ヒ九段勸商業ニ於テ物品ヲ購ヒ二時帰宿ス三時禄太郎来ル夜食ヲ饗シ六時半去ル○六時半神田辻書籍買ニ行キ八時帰ル不在中山口亮氏訪ハル

同四日 半晴 日曜日

午前六時半高橋義比田代岑美氏ヨリ書状到達ス○八時ヨリ山口宗

義、若槻礼次郎 梅謙次郎氏暇乞ノ為メ訪問最後ニ松平子爵訪問談府縣廢合ノ事ニ及フ子爵ノ談左ノ如シ

清浦二面会ノ節之ヲ問ヒ府縣ノ廢合ヲ実行スルトノ事ハ聞キタルモ他ニ同席者モ有之何府縣ヲ廢合スルヤハ之ヲ聞クコトヲ得サリシ其他内務省地方局在勤ノ大東某二問フタル廢合府縣ノ内君ノ縣ノ名ハ無カリシ様覺ユトノ事ナリシモ此人ハ新タニ地方局ニ入りタルモノナレハ敢テ之ヲ信シ難シ此件ハ次ノ議會ノ問題ト為ルヲ無キモ將來必ス起ルヘキ問題ナレハ常ニ之ヲ心ニ留メテ圖ル所アルヘシ云々猶地方ノ諸氏ニ宜敷頼ム

十一時四十分帰宿不在中安井泉氏訪ハレ禄太郎ヘノ贈物ヲ托シテ帰ラル○正午谷清瀬氏暇乞訪問暫時對話シテ去ラル○一時桜井駿氏ヲ訪ヒ政府ノ内容知レ次第内報ヲ乞ヒ谷清瀬氏ヲ暇乞ノ為メ訪問シテ二時帰宿ス○二時小川秀太郎氏訪問嚴父ヘ之伝言ヲ頼マル依頼ノ要件ハ別紙ニアリ禄太郎二時半来リ小川ハ三時禄太郎ハ五時半去ル○午後八時小包二箇ヲ發ス

同五日 半晴 月曜日

午前八時半留守ヘ書状發ス○八時半谷末恭藏氏来訪暫時ニシテ去ラル○八時伊藤大八氏ヲ訪フ不在北尾氏訪ヒ面會松平伯ニ伺候拜詞

松江米子ノ戸数人口及銀行會社物産等ヲ取調送付スヘキ様御依頼アリ猶松方始め其外ノ返答知レ次第通知ス佐藤三島等ニ宜敷トノ御伝言アリ

安井山口両氏宅ニ暇乞ニ往キ十一時帰宿ス午後二時禄太郎来ル二時半北尾氏訪ハル暫時ニシテ去ラル禄太郎三時前帰ル○三時半九段坂下辻買物ニ往キ今村氏ハ勝光刀ヲ受ケ取り五時半帰宿ス○八時半雨

森辰太郎・森太郎同道来訪雨森をハ入籍届後見就職届ノ事猶戸籍謄本
送付之事ヲ依托セラル十時帰ラル

同六日 晴 火曜日

午前六時半留守を書状到着○八時伊藤大八氏ヲ訪ヒ小川□^{二字不詳}□^{二字不詳}差入置
タル証書ノ返戻ヲ受ク當時伊藤大八氏ノ談左ノ如シ

島根県へ派出者ノ報告ニ依ルトキハ先輩者頗ル冷澹ナルカ如シ
此度久我侯爵派出ノ如キ本部ニ於テハ頗ル注意シテ派出セリ然
ルニ小川氏ノ如キハ故ラニ避ケタル如キ感アリ又縣廳へ回答ノ
事アリ本部ニ於テモ不快ヲ感シ居レハ今後餘程注意アリタシト
ノ事

八時四十分帰宿ス○笹岡元甲氏へはがきヲ發ス